

リニア沿線紀行

リニア名古屋駅予定地周辺の状況
～リニア駅工事の範囲が拡大～

リニア名古屋駅現場を訪れる機会を得たので、現地の様子を報告する。

1. 西口駅前の風景が激変

名古屋駅の中央コンコースを新幹線乗り場を横に見て進み太閤通路を出る。高速バス乗り場横は前々からフェンスに囲まれた工事現場だったが、駅前通り（市道椿町線）の向こう側が大規模工事現場に変わっていた。名古屋駅向かい中央のビックカメラ名古屋駅西店とその向かって右隣のビルまではそのままだが、その隣から無くなっている。

現場の工事仮囲い（フェンス）で囲われている部分を地図に落としした（本頁下および次頁概略図）。併せてJR東海の中央新幹線名古屋駅新設環境保全計画書（平成28年12月/令和3年6月更新）に示されている作業エリア（グレー網掛け）と駅範囲（黒破線）を落とし込んだ。これをみると工事エリア内の建物がほぼ撤去されフェンスで囲われていることが判る。残る建物はビックカメラに向かって右側のビルくらい。駅西は戦災を免れ、区画整理が行われずにあったため、土地所有者、建物所有者、テナント入居者等の権利関係が複雑で用地買収が難航する、と指摘されたが、ここまでになった。

フェンスに沿って回る。表通りから一步入ると閑静な住宅街。戸建てや集合住宅（マンション形式が多い）が並んでいる。この辺りは中村区則武2、盛んに輸出されて外貨獲得に貢献してきた洋食器ブランド「ノリタケ（Noritake）」の命名の基となり、現ノリタケカンパニーリミテド（本社：名古屋市区）の創業の地であることが判る。

2. 昭和通りを駅方面へ行くと

更に回り込んで昭和通りに行く。この通り沿いは名古屋駅に更に近いため、飲食店を中心に店が並んでいる。

通りの片側にフェンスに囲まれた建物2つ、中華料理店（いわゆる街中華）と卸売店がある（概略図★印）。これは移転交渉が遅れているのではなく、駅に掛かるのを免れたため、このまま居続けられる建物。中華店店主が「営業を続けられるが工事中の騒音・振動は凄い」といった発言を名古屋のTV局（CBC）のローカルニュースで見たことがある。残念なことに訪問時には閉店していて話を聞くことができなかった。

その先を行くと椿神明社となる。歴史のある神社で創建年不明ながら15世紀には既にあり平安時代まで遡る可能性があるという。こちらは、敷地の一部が駅予定地に掛かり社殿の曳家をした。詳細を施工業者のHPで確認できた（<https://www.uotsushaji.co.jp>）。現在は移転の一切が完了し、社地は整えられていた。

この一帯の工事の進行状況は、フェンスの中を窺い知ることはできないが、重機等の様子から地中連続壁の施工が進められているようだ。



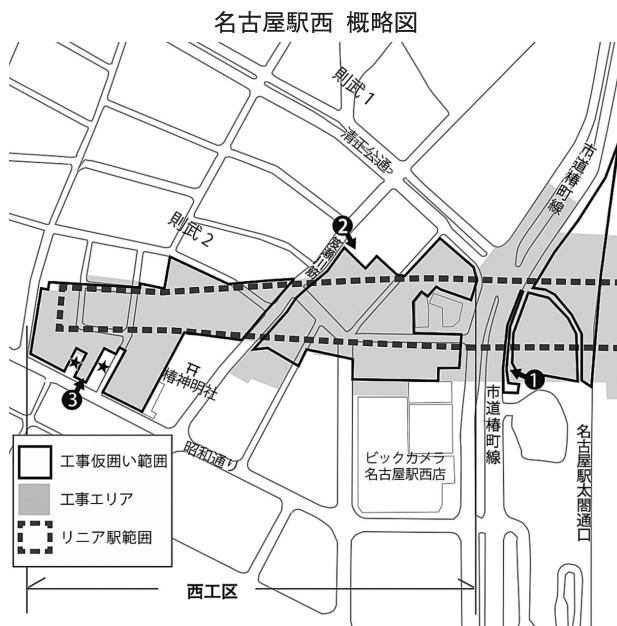
名古屋駅西口前の状況（頁下概略図①）



筈瀬川筋の工事状況（同②）



移転を免れた建物（昭和通り、同③）



3. 名古屋駅東側の状況

名古屋駅東側に移って様子を見た。駅東側桜通口を出ると2015年に再築されて高層化され、印象を一新した大名古屋ビルヂングが聳える。その向かって左隣のビル（東洋ビル）は解体され、工事ヤードとなっていた。

こちらでも工事フェンスに沿って歩いたが、以前の歩道が工事エリアとなって無くなっていたり、道路も1車線取られていたり、特に賑わう駅東が通行しづらい状況となっている。

東工区に属する区域を歩いてみると、こちらでも計画に示された工事エリアとフェンスの区域が一致しているように見えた。



ビルが解体され工事ヤードになった区画
(下概略図④)

右端は大名古屋ビルヂング、中央のビルは工事エリアに掛からない

名古屋市の再開発計画

4. 名古屋市の再開発計画

名古屋駅東口の正面にあった Monument「飛翔」はほぼ解体が終わっていた。これはリニア本体工事関連ではなく、名古屋市の駅前再開発計画によるもので、本年6月から解体工事が行われていた。

計画では、駅前の名駅通と桜通の線形を変え、Y字型交差点にして東口側に広場をつくるのだという(右図)。

また、現名古屋駅の地下にリニア駅が設置された後、埋め戻されると広大な空間が出来上がる。名古屋市はここを「スーパーメガリージョンの中心にふさわしい重層的な拠点の形成を目指」すとして、「①顔となる広場の整備、②まちへの動線の確保、③タクシースペースの改善」を挙げている(名古屋市「名古屋市周辺まちづくりの現在の状況」令和3年4月更新)。

広場について具体的には、令和3年9月にプロポーザルを実施し設計チームを選定。同チームの提案を基にデザイン計画を作成していく、としている。

5. 終わりに

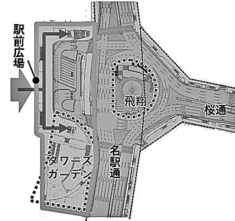
以上、名古屋駅周辺を駆け足で訪問した。例によって、現地で事業者等から説明を受けていないので、あくまでも現場を見た印象で記している。

名古屋市内では以上の他に、名駅周辺では名鉄名古屋駅の再開発やささしまライブ24地区方面への結節強化、高速道路の名古屋駅アクセスの改善などが進められている。栄地区では久屋大通公園のリニューアルなど盛りだくさん。また名駅一伏見一栄地区都市機能誘導制度により容積率緩和+地区計画による高度利用と都市機能の増進が謳われている。いずれにしろ、名古屋においても「リニアから降りて(通過しないで)もらえる街」を目指して模索しているといえる。

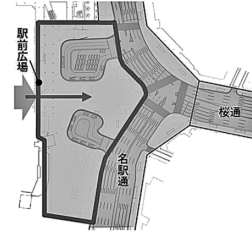
リニア開通後も名古屋市は当地域にとって最も近い都会となる。今後も注視していきたい。

(都市計画変更の主な内容)

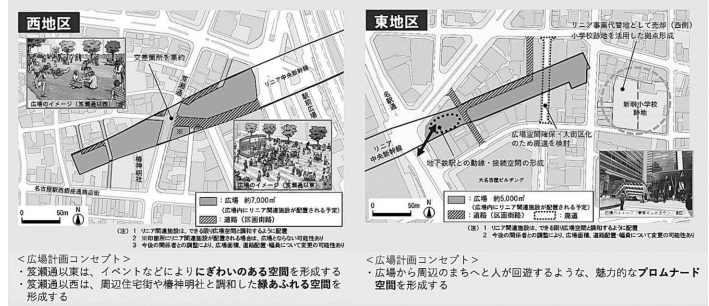
【変更前】



【変更後】



■リニア駅上部空間の計画検討状況図



「名古屋周辺まちづくりの現在の状況」(名古屋市HP)

名古屋駅東 概略図

